

皮革造形 の世界

大久保婦久子展

10/1~11/23 祝まで



日本はもとより、世界でもその作品が高く評価されている皮革造形美術の第一人者・大久保婦久子（大正8年～平成12年）。静岡県下田市に生まれた大久保婦久子は、女子美術専門学校（現女子美術大学）在学中に革染色と出会いました。以後、それまで日本には無かった皮革造形分野を独自に開拓し、芸術性の高い作品を創作・発表。平成12年に文化勲章を受章しています。今展では、遺族から市に寄附された47点をはじめとする57点の作品を紹介します。

『海のコイン』昭和49年（1974）

- 開館時間 午前10時～午後6時（入場は5時30分まで）
 - 休館日 毎週月曜日（ただし、10月10日は開館、翌11日は休館）
 - 入館料 一般（大学生以上）500円 高校生以下無料
団体（10名以上）400円
- ※会期中は、板谷波山記念館・常設展もご覧いただけます。



『王将譜』昭和55年（1980）

しもだて美術館 Shimodate Museum of Art

筑西市丙372（アルテリオ3階）TEL 0296-23-1601
ホームページ <http://www.city.chikusei.lg.jp/museum>

編集後記

俳句甲子園での石塚さんの一句に『熨斗紙をかけて下さい秋麗』がある。澄み切った秋空の様を独り占めするのはもったいなく、誰かに熨斗紙をつけて差し上げたい気持ちに詠んだもの。さて、私なら誰に上げようかと思いを馳せると、ひとときの夢の中へと春麗（も）

『光る泥だんご作り』を取材。私の仕事は、みんなが楽しそうに作る姿を撮ること。と、思いつつ、勤められるまま挑戦することに。実際にやってみると、難しいけれどおもしろいぞ。たかが泥、されど泥。子どものころに戻ったように、泥の感触を楽しみました。（@）

ひまわりフェスティバルを取材しました。来場者に尋ねてみると「東京から来ました」「埼玉」「栃木から」との声。テレビ番組で紹介されたこともあり、例年に増して県外からのお客さんが来場したようで、視界一面に広がるひまわりを楽しんでいました。（∞）



白く小さなソバの花。筑西のソバは、高い品質を誇る県の奨励品種「常陸秋そば」。